

企業情報

株式会社 石村鉄工

所在地	北海道上川郡美瑛町		
ホームページ URL	https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/500/501/502/d056913.html		
設立年	1956 年	業種	金属製品製造業、生産用機械器具製造業
従業員数	5 人	資本金	500 万円

企業概要

日本ではまだ馴染みの浅い欧米型砕土・整地機を自社ブランドで開発・生産している会社です。整地・砕土機を用いることで、団粒構造を造成し、「透水性・保水性・通気性」を確保するとともに、微生物活性化が期待できます。

これまで、北海道内を中心にお取引をいただいておりましたが、TPPなど今後大きな環境変化にさらされることが確実な日本の農業においては、北海道において培った機器開発のノウハウがみなさまのお役に立つものと思います。ご支援・ご指導をよろしくお願ひいたします。

自社の強み

右の写真は、トラクターの前方に「チゼル・ブラウ」を装着し、後方に播種機を装着して作業している様子です。

この装置を使用することで、透水性・保水性・通気性を高めながら、耕すことができます。そして、「下層土を反転させない」「耕盤をつくらない」「ブラウなどの犁底盤を破壊する」「地温を上げる」などの効果が得られます。その結果、播種後の生長が促進されます。



一押し商品

一押し商品は、意匠登録済（第1464758号）の「ヘビー・カルチ Trio シリーズ 水田用」です。

従来の爪間2列を3列にし、チゼル部にワイング・シェアを取り付けることで、表層部をより効率的に砕土・整地することが可能となる機械に生まれ変わりました。新開発の「スター型ローラー」により、泥が詰まりません。湿田を乾かす、高能率粗耕起機です。



ヘビー・カルチ Trio シリーズ水田用

知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社は、これまで特許を取得していませんでしたが、道内の農業関連の学会の展示会に新製品を展示したところ、所属している工業会より、今回の製品が真似される可能性があることから知財化を勧められました。展示会でも顧客からの評判が良かったので、これは特許を出しておかないと「まずい」と思い、その後、北海道商工会連合会を通じて、知財窓口に相談をしました。

最初の相談概要

知財窓口担当者と農業機械に詳しい弁理士の先生が同社を訪問し、社長に対して、特許出願手続きに向けて必要書類を揃えて欲しいとお願いしました。また、知財窓口担当者から社長に対して、特許よりも早く取得することが可能で、製品のデザインを守ることになる意匠取得についても提案を行いました。（特許は拒絶査定となりました）

その後の相談概要

その後の出願手続きについては、同社と弁理士との直接契約によって支援を実施しました。また、知財窓口もフォローを続けており、同社の技術担当者と面会し、状況のヒアリングを行っています。そして、フォローでの訪問を受けて、審査請求手続きを進めることにしました。

「スター型ローラー」については、幅の狭い仕様の中小規模水田用姉妹機を開発し、意匠出願を行うとともに本州市場への市場拡大を計画しています。

窓口を活用して変わったところ

当社は、事業継承者が不在の状況を何とか打破するため事業継続の方法について模索をしていましたが、事業実績や信用性向上で取引先のスガノ農機(株)からM&Aの打診があり、好条件で事業を引き継いでもらえることになりました。今まで知財の活用や権利化による支援で業界からの信頼性ができたことから、顧客への迷惑を掛けず事業継承の課題解決に至りました。

企業からのメッセージ

M&A祈願のスガノ農機株式会社と合併出来たのも北海道知財総合支援窓口支援のお陰です。定期的なフォローアップなど知財活用について知財を意識した事業経営ができました。また、意匠権を取得したことによる、北海道有料農業機械表彰：北海道知事賞（北海道農業機械工業会）、北海道地方発明表彰：日本弁理士会会長奨励賞の受賞実績で大いにM&AのPRに繋がり課題解決に繋がりました。

窓口担当者から一言 （氏名：森山 潤）



支援者は、M&A以降も営業統括本部営業推進部顧問として北海道の農業従事者に大いに貢献される人材として期待されている方です。今まで築き上げてきた経験と実績を活かしていただきご活躍を期待したいと思います。

窓口支援事例 【北海道 知財総合支援窓口】

企業情報

株式会社 石村鉄工

所在地	北海道上川郡美瑛町		
ホームページ URL	http://ishimura-agri.co.jp/		
設立年	1956 年	業種	金属製品製造業、生産用機械器具製造業
従業員数	5 人	資本金	500 万円

企業概要

日本ではまだ馴染みの浅い欧米型砕土・整地機を自社ブランドで開発・生産している会社です。整地・砕土機を用いることで、団粒構造を造成し、「透水性・保水性・通気性」を確保するとともに、微生物活性化が期待できます。

これまで、北海道内を中心にお取引をいただいておりましたが、TPPなど今後大きな環境変化にさらされることが確実な日本の農業においては、北海道において培った機器開発のノウハウがみなさまのお役に立つものと思います。ご支援・ご指導をよろしくお願ひいたします。

自社の強み

右の写真は、トラクターの前方に「チゼル・ブラウ」を装着し、後方に播種機を装着して作業している様子です。

この装置を使用することで、透水性・保水性・通気性を高めながら、耕すことができます。そして、「下層土を反転させない」「耕盤をつくらない」「ブラウなどの犁底盤を破壊する」「地温を上げる」などの効果が得られます。その結果、播種後の生長が促進されます。

一押し商品

一押し商品は、意匠登録済（第1464758号）の「ヘビー・カルチ Trio シリーズ 水田用」です。

従来の爪間2列を3列にし、チゼル部にワイング・シェアを取り付けることで、表層部をより効率的に砕土・整地することが可能となる機械に生まれ変わりました。新開発の「スター型ローラー」により、泥が詰まりません。湿田を乾かす、高能率粗耕起機です。



ヘビー・カルチ Trio シリーズ水田用

知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社は、これまで特許を取得していませんでしたが、道内の農業関連の学会の展示会に新製品を展示したところ、所属している工業会より、今回の製品が真似される可能性があることから知財化を勧められました。展示会でも顧客からの評判が良かったので、これは特許を出しておかないと「まずい」と思い、その後、北海道商工会連合会を通じて、知財窓口に相談をしました。

最初の相談概要

知財窓口担当者と農業機械に詳しい弁理士の先生が同社を訪問し、社長に対して、特許出願手続きに向けて必要書類を揃えて欲しいとお願いしました。また、知財窓口担当者から社長に対して、特許よりも早く取得することが可能で、製品のデザインを守ることにもなる意匠取得についても提案を行いました。（特許は拒絶査定となりました）

その後の相談概要

その後の出願手続きについては、同社と弁理士との直接契約によって支援を実施しました。また、知財窓口もフォローを続けており、同社の技術担当者と面会し、状況のヒアリングを行っています。そして、フォローでの訪問を受けて、審査請求手続きを進めることにしました。

「スター型ローラー」については、幅の狭い仕様の中小規模水田用姉妹機を開発し、意匠出願を行うとともに本州市場への市場拡大を計画しています。

窓口を活用して変わったところ

小さい会社なので、体制は変わっていませんが、既に新機種を発表していますので、今後も特許や意匠を取りたいと考えています。意匠登録後は、新聞記者が取材に来て記事になり、意匠取得が企業PRにも役立っています。自社のメイン商品について、意匠権取得の効果が継続して表れています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

知財窓口の支援には感謝、満足しています。当社のような中小零細企業の場合は、弁理士費用を支払うのにも苦労しますので、登録、申請費用の補助制度を活用したいと考えています。

窓口担当者から一言（氏名：森山 達）



相談時には、展示会で発表済であったため、「新規性喪失」の可能性があり、早急に特許出願に取り組む必要がありました。同社の協力により、手続きをすばやく進めることができ、特許出願することができました。それから、早急な権利化の一環として、意匠に取り組むことを提案し、意匠登録することができました。

窓口支援事例 【北海道 知財総合支援窓口】

企業情報

株式会社 石村鉄工

所在地	北海道上川郡美瑛町		
ホームページ URL	http://ishimura-agri.co.jp/		
設立年	1956 年	業種	金属製品製造業、生産用機械器具製造業
従業員数	5 人	資本金	500 万円

企業概要

日本ではまだ馴染みの浅い欧米型砕土・整地機を自社ブランドで開発・生産している会社です。整地・砕土機を用いることで、団粒構造を造成し、「透水性・保水性・通気性」を確保するとともに、微生物活性化が期待できます。

これまで、北海道内を中心にお取引をいただいておりましたが、TPPなど今後大きな環境変化にさらされることが確実な日本の農業においては、北海道において培った機器開発のノウハウがみなさまのお役に立つものと思います。ご支援・ご指導をよろしくお願ひいたします。

自社の強み

右の写真は、トラクターの前方に「チゼル・ブラウ」を装着し、後方に播種機を装着して作業している様子です。

この装置を使用することで、透水性・保水性・通気性を高めながら、耕すことができます。そして、「下層土を反転させない」「耕盤をつくらない」「ブラウなどの犁底盤を破壊する」「地温を上げる」などの効果が得られます。その結果、播種後の生長が促進されます。

一押し商品

一押し商品は、意匠登録済(第 1464758 号)で、特許出願中(特願 2012-212339 号)の「ヘビー・カルチ Trio シリーズ 水田用」です。

従来の爪間 2 列を 3 列にし、チゼル部にワイング・シェアを取り付けることで、表層部をより効率的に砕土・整地することが可能となる機械に生まれ変わりました。新開発の「スター型ローラー」により、泥が詰まりません。湿田を乾かす、高能率粗耕起機です。



ヘビー・カルチ Trio シリーズ水田用

2013年12月23日 掲載

旧

知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社は、これまで特許を取得していませんでしたが、道内の農業関連の学会の展示会に新製品を展示したところ、所属している工業会より、今回の製品が真似される可能性があることから知財化を勧められました。展示会でも顧客からの評判が良かったので、これは特許を出しておかないと「まずい」と思い、その後、北海道商工会連合会を通じて、知財窓口に相談をしました。

最初の相談概要

知財窓口担当者と農業機械に詳しい弁理士の先生が同社を訪問し、社長に対して、特許出願手続きに向けて必要書類を揃えて欲しいとお願いしました。また、知財窓口担当者から社長に対して、特許よりも早く取得することが可能で、製品のデザインを守ることになる意匠取得についても提案を行いました。

その後の相談概要

その後の出願手続きについては、同社と弁理士との直接契約によって支援を実施しました。また、知財窓口もフォローを続けており、同社の技術担当者と面会し、状況のヒアリングを行っています。そして、フォローでの訪問を受けて、審査請求手続きを進めることにしました。

窓口を活用して変わったところ

小さい会社なので、体制は変わっていませんが、既に新機種を発表していますので、今後も特許や意匠を取りたいと考えています。意匠登録後は、新聞記者が取材に来て記事になり、意匠取得が企業PRにも役立っています。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

知財窓口の支援には感謝、満足しています。当社のような中小零細企業の場合は、弁理士費用を支払うのにも苦労しますので、登録、申請費用の補助制度を活用したいと考えています。

窓口担当者から一言 (氏名:森山 潤)



相談時には、展示会で発表済であったため、「新規性喪失」の可能性があり、急に特許出願に取り組む必要がありました。同社の協力により、手続きをすばやく進めることができ、特許出願することができました。それから、早急な権利化の一環として、意匠に取り組むことを提案し、意匠登録することができました。